
研究活動報告

南アフリカ「人口推計，都市開発における財政・データ利用に関するワークショップ」

2017年10月31日（火），南アフリカ・ケープタウンのタウンハウスホテルで，南アフリカ都市ネットワーク（SACN）と国際協力機構（JICA）が主催する，「人口推計，都市開発における財政・データ利用に関するワークショップ」に，国際人口学会大会に参加中の菅桂太（人口構造研究部室長）と筆者が参加した。菅室長は日本における地域人口推計について，筆者は日本における都市の定義と都市人口の推移について報告した。南アフリカでは，人口増加と都市化が進行し，流動する人口をどのように把握し，経済成長につなげるかが課題となっている。このワークショップには，WorldPop/Flowminder プロジェクトを主宰する英国サウサンプトン大学のテイタム教授も参加し，筆者らの日本型統計利用に付け加え，携帯電話データを利用したビックデータの活用についての紹介もあり，新興国における人口移動データのあり方について，議論がはずんだ。（林 玲子 記）

シンガポールの人口高齢化及び国際人口移動の実態とその要因に関する資料収集

厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題推進研究事業）による研究事業「東アジア，ASEAN 諸国の人口高齢化と人口移動に関する総合的研究」の一環として，11月7日から11月13日にかけてシンガポールに滞在し，シンガポール大学や国立図書館等を訪問し最新の統計資料収集を行った。また，滞在中にシンガポール大学公共政策研究所で「シンガポールにおける出生力変動の生命表分析—1980~2015年の初婚力と既婚出生力の民族格差に着目して」に関して研究報告を行ったほか，シンガポール大学アジア研究所の主催で行われた「若年者に対する労働市場の不確実性」セミナーに出席し，専門家との意見交換を行った。いずれもシンガポール人口の少子高齢化及び国際人口移動の実態とその要因に関し社会・政治・経済・文化的変動について多面的な意見交換を行うとともに，統計調査データ・論文・報告書を含む貴重な資料を収集できた点で成果があった。（菅 桂太 記）

国際学術会議「AGENTA Final Conference：高齢化の経済的帰結と世代間の公平性」および NT(T)A ワークショップ

オーストリア・ウィーンにて，国際学術会議「AGENTA Final Conference：高齢化の経済的帰結と世代間の公平性」（平成29年11月20-21日）および NT(T)A ワークショップ（平成29年11月22日）が開催された。同会議は，欧州委員会の研究費により2014年から継続してきた AGENTA プロジェクト（「高齢化していくヨーロッパ：国民移転勘定の応用による公的支出動向の説明と予測」2014年1月~2017年12月）の最終成果報告を兼ねたものであり，Wittgenstein Centre for Demography and Global Human Capital の主催により行われた。同会議では，高齢化に伴う社会経済的諸問題という先進諸国に共通する課題についての指導的研究者が一堂に会し，欧州を中心とする諸外国における先